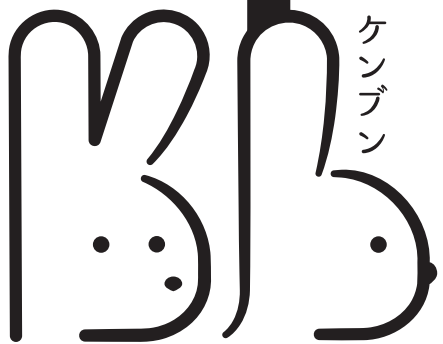


# KENBUN

新しいケンブン

# JOURNAL

ケンブン



New Culture, New Experience  
愛媛県県民文化会館

LIVE

伊予銀行 presents 2024.12.7

読売日本交響楽団 愛媛公演2024

COVER

## 大井剛史 × 角野隼斗



大井剛史 © Ayane Shindo

角野隼斗 © Ryuya Amao

## KENBUN JOURNAL

New Culture, New Experience

愛媛県県民文化会館、略して「ケンブン」から  
ケンブンを楽しむための情報をお届け！

vol.003  
2024



アンケートにご協力ください

ケンブンジャーナル編集部 kenbun\_journal@ecf.or.jp



よりよい紙面づくりを目指すため、左記の2次元コードから、ご意見・ご感想をお寄せください。  
【個人情報の取扱いについて】個人情報は読者層の調査のために使用します。また、お寄せいただいたご意見は愛媛県県民文化会館のホームページや  
刊行物などに匿名で掲載させていただくことがあります。ご本人の承諾のない限り、前述の目的以外に使用、第三者に提供することはありません。

Issue

えひめ文化振興コンソーシアム

T790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5-1 TEL.089-923-5111  
<https://www.kenbun.jp/>

TAKE FREE

### ARTIST INTERVIEW

「名作と名手が生み出す  
素敵なひとときを  
一緒にしましょう」

指揮 **大井剛史**

「時代を超えた  
音楽の普遍性を  
感じていただけたら」

ピアノ **角野隼斗**

### EHIME CULTURE

広報・たぬ子の

ゆかりアーティスト  
interview

### KENBUN COLUMN

ケンブンケンガク

エヒメ文化を語る

ケンブンのお仕事

県文と私

ケンブン周辺見学



©読響

FEATURE

名作と名手が生み出す  
素敵なひとときを  
ご一緒しましょう

指揮 大井剛史

1974年生まれ。2024年から東京佼成ウインド  
オーケストラ常任指揮者。2008年アントニオ・ベド  
ロッティ国際指揮者コンクールで第2位入賞。

時代を超えた  
音楽の普遍性を  
感じていただけたら

ピアノ 角野隼斗

1995年生まれ。2021年シヨバン国際ピアノコン  
クールセミファイナリスト。これまでに読響、N響、  
ポーランド国立響、ハンブルク響などと共演。

**Q.1**  
「読売日本交響楽団 愛媛公演」では、  
大井さんと角野さんが共演。今の心境  
や公演の聴きどころをお願いします。

大井：角野さんは才気あふれるピアノを弾かれる方と伺っています。公演の前半はモーツァルトで、いわばクラシック中のクラシック。優雅になるか、ドキドキワクワクになるか、あるいはその両方を兼ね備えるかは角野さん次第。蓋を開けてみるまで予測が付きません。後半はガラリと変わってダイナミックな近代管弦楽の魅力が味わえます。ガーシュインももちろん楽しみですが、名手揃いの読響の演奏する「ボレロ」に期待が高まります。  
角野：モーツァルトとガーシュインは（時代こそ違うものの）遊び心と音のタッチが鍵であるという点で近い精神性があると思うことがあります。今回の曲はどちらも作曲家を代表する作品ですが、あまり並列されることのない両者を並べることで、時代を超えた音楽の普遍性を感じていただけたらうれしいです。

**Q.2**  
読響の印象をお聞かせください。

大井：読響は言うまでもなく日本のトップオーケストラの一つ。そのリッチな音と奔流するような音楽が魅力的です。  
角野：読響とは何度も共演させていただいていますが、いつも躍動感にあふれ、音楽が活き活きとしていて多くの刺激をもらっています。

**Q.3**  
音楽家として大切にしていること、  
伝えたい想いとは？

角野：一つはクラシック音楽を生きた音楽にすること。もちろん伝統は正しく継がれていくべきですが、100年前と同じことをやっているだけでは、やがて萎んでなくなってしまうかもしれない。21世紀を生きる音楽家として、現代の音楽とのつながりを広く持ちながら、クラシック音楽の間口を広げられる助けが少しでもできればと考えています。もう一つは、自己実現と自己満足を履き違えないことです。

音楽を通して伝えたい想い、というのは持たないことにしています。受け手一人ひとりが違った感情を受け取れるのが、音楽の面白いところなので。

大井：私もそのような想いは持たないようにしています。オーケストラが出した音楽のその先は、お客さまのもの。出したものをどう捉えるも、お客さまの自由だと思います。それでも敢えて申し上げるならば、自分がコンサートで感じる「生きてよかった」という感情・空気感を共有できたらうれしく思います。

**Q.4**  
最後にメッセージをお願いします。

角野：愛媛に行くことができうれしいです。会場でお会いできることを楽しみにしています！  
大井：角野さんが自由に翔けるよう、最大限のサポートをしつつ、「ボレロ」では読響の魅力を皆さまにご紹介できたらと思います。名作と名手が生み出す素敵なひとときを、皆さまと共有できたら幸いです。



伊予銀行 presents  
読売日本交響楽団 愛媛公演2024  
大井剛史×角野隼斗  
12月7日(土) 14:00～(13:15開場)  
@メインホール

幅広い分野でマルチな才能を発揮している実力派マエストロ・大井剛史と、「かていん」名義のYouTubeでも人気の角野隼斗が豪華共演！モーツァルトとガーシュインの2曲で会場を沸かせる。  
問/089-927-4777  
(公益財団法人 愛媛県文化振興財団)  
※未就学児の入場は不可

ARTIST 鍛冶職人 Jさん

内子町にて父と共に「自在銅房」を営む。燭台のほか、鉄に異素材を組み合わせたオブジェや日用品など、父とは異なる作風の作品を製作している。



ものづくりの興味は  
鉄だけに留まらない

家業が鍛冶屋だったこともあり、「僕が跡を継ぐのだろうと漠然と考えていた」と語るのは、鍛冶職人 Jさん。現在は外部依頼のほか、県内外のアーティストとコラボレーションをするなど幅広く活動している。だが、鍛冶職人に憧れ夢を叶えた職人と、漠然と職人となった自分では、仕事への情熱に温度差があり、自身の活動について悩むこともあるそう。師匠でもある父・児玉政輝氏との共通点を聞いたところ、「仕事に対する考えも性格も違ってきますね」と話すが、親子で喧嘩をすることはなく、お互いが自由に製作している。一度内子町を離れたこともある彼だが、「この町に恩返しができるような仕事をしていきたいですね」と地域への想いを話してくれた。

伝統文化からサブカルチャーまで愛媛にゆかりのあるアーティストに広報のため子がインタビュー

KENBUN  
AREMOBUNKA  
KOREMOBUNKA  
ゆかりアーティスト  
interview

vol.3  
もっと読みたい方  
はコチラ▶



愛媛の芸術・文化 広報・ため子

麦との出会いが  
作家活動の原動力

ARTIST Straw Lyrics 山本真希さん

高知県出身、東温市在住。幼少期よりものづくりが好きで、美大へ進学。愛媛で初めて見た麦畑に衝撃を受ける。その後「ヒンメリ」に出会い、作家として活動。

@straw\_lyrics

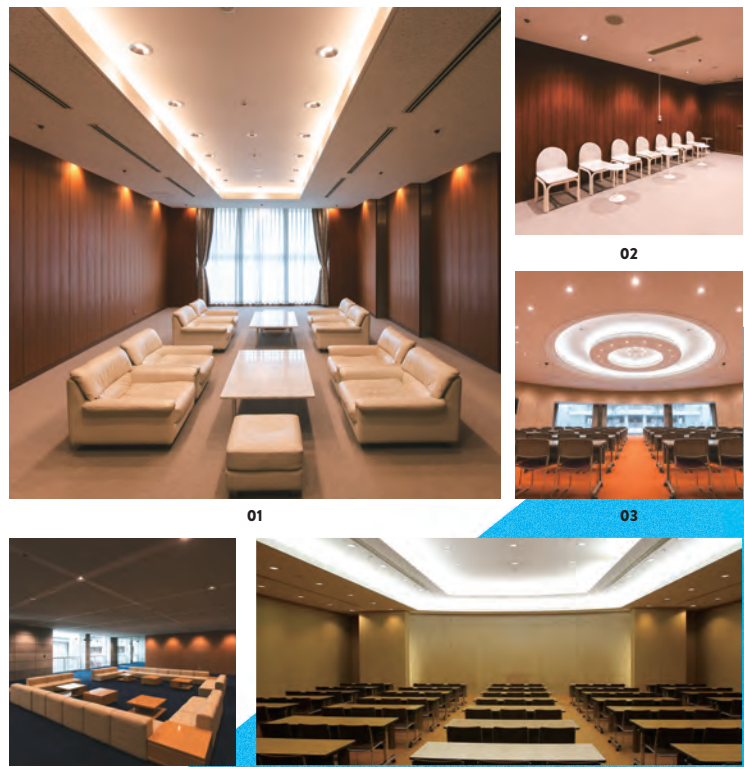
麦わらと糸でつくる、フィンランド発祥の「ヒンメリ」をご存知だろうか。山本さんは、愛媛で初めて見た麦畑に感動し、ヒンメリの制作を開始。その後、「SAKURA select」選定時のアドバイスがヒントとなり、「物語のある作品づくり」を軸にヒンメリ作家になることを決意。同時に麦の自家栽培を始めた。自ら栽培することで、素材になるまでの過程を知り、麦をより丁寧に扱うようになったそう。糸は野村町の伊予生糸を使用。生糸は撚っていないため、焦ると表面が毛羽立ち、制作がうまくいかないことも。「自分の気持ちが反映されるようで、戒めになっている」と教えてくれた。素材に感謝をしなが、編み出される彼女の作品には素材の物語が受け継がれている。

KENBUN KENGAKU

## ケンブンケンガク

知らない人も多い(かもしれない)けど、ケンブンって実は名建築。建物のトリビアから普段、見ることができない裏側まで紹介

THEME [“世界のタンゲ”が会議室を設計すると、こうなる!]



01・02 歓談や座談会に最適な特別会議室は専用トイレと前室付きで、ほかの会議室より“特別”であることがわかる 03 第8会議室は学会や大会はもちろん、展示販売会やマルシェなども開催可能 04 3階の会議室にはロビーもあり、休憩のひとつをゆったりと過ごせる 05 最大135名まで収容できる第6会議室

ケンブンを設計したのは、“世界のタンゲ”と丹下健三。彼が得意とした機能美を重視したモダンな空間づくりは、9室ある本館会議室にもよく表れている。なかでも美しさが際立つのが、第6・第8会議室と特別会議室。第6会議室は、天井いっぱいに間接照明とダウンライトを採用しながら、照明器具としての存在を感じさせない。それでいて、やわらかな光が空間に視覚的な広がりをもたらしている。第8会議室は、楕円形の空間が特徴的。天井には美しい弧が描かれ、正面の開口から県民プラザを一望できる。もっともラグジュアリーなのが特別会議室。南側の窓から入る自然光が心地良く、大切なゲストをもてなすのにふさわしい空間だ。段違いとなった壁のデザインからも、丹下のこだわりが垣間見える。開館当初は応接室として使われていたため、他の会議室とは一線を画すデザイン性の高い1室となっている。スペシャルなひとときを演出したい…そんなときこそ“タンゲの会議室”はいかがだろう。

## ケンブンのお仕事

KENBUNJIN NO OSHIGOTO

ケンブンで働く人の現場に潜入!



真珠の間を2部屋に区切るパーティションを軽々移動!



一般管理・受付 片上敬三さん

ケンブンが開館した1986年から勤め上げ、定年を迎えた今も施設管理から植栽の世話まで幅広くこなす片上さん。スタッフのサポート役も担う“縁の下の力持ち”だ。来館者の案内や会場準備など体を動かすことが多く、1日で1万歩も歩いていたことも。「お客さまに『ケンブンで良かった』と言われるのが、最大のご褒美ですね」と見せる笑顔に、ケンブン人としての矜持が刻まれている。

## 県文と私

KENBUN TO WATASHI

県文との思い出を語る

by エディター/DJ ミズモトアキラ さん

こけら落としとして坂本龍一がライブをしたんです。電話やネットで予約できる時代じゃないから、朝から並んでチケットを買わなきゃいけなかった。で、けっこう早く出かけたつもりが、すでに20人くらいの女性が列になって。終わった…良い席が取られた…って絶望すると順番がきて、いざ座席表を差し出されたら真っ白なの。女性たちは同日にチケットが発売された別のピアニストのファンで、教授目当ての人はまだひとりも来てなかった(笑)。おかげで最前列で観られたのがぼくと県文の最初の思い出です。

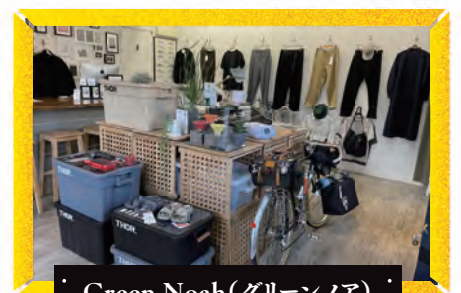


県文との思い出募集中

## ケンブン周辺見学

KENBUN SURROUNDING TOUR

ケンブン近くの素敵な施設を紹介



Green Noah(グリーンノア)

ハイセンスなアパレルやアウトドア雑貨がそろったライフスタイルショップ。愛媛ではグリーンノアのみが取り扱うブランドも多く、オリジナルブランド「Dogo filters club」にも注目したい。インスタでは旬のファッションやアウトドアギア、イベントなどの情報を発信している。

住/松山市道後町2-12-1  
City & Front 1F  
電/089-989-8006  
営/12:00~20:00 休/木曜



今年、県民文化会館メインホールで開催された「反田恭平 & Japan National Orchestra」のコンサートに行った。第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで日本人として半世紀ぶりの第2位を受賞した反田恭平率いる新オーケストラとの出会い。彼自身が指揮棒を振りながら、ピアノパートは自らがピアノを弾くという、アクロバティックな動きに唖然。彼の最終目標はオペラとのこと。大きな夢を着々と実現しているようだ。音楽は個々の楽器がハーモニーを奏でながら流れていく様に身を預けるしかなく、音楽は人生そのものなんだなあと思得したのであります。



シアターねこ 鈴木美恵子さん  
シアターねこ代表、NPO法人シアターネットワークえひめ理事。松山に表現の場を提供し、松山の演劇に関わる場所をつくりたいと活動。



## 時には轍を辿ったり、描いたり。

その③【THEME: ソウルはどこにある?】

鯛めしや鍋焼きうどん、じゃこ天といった人気の愛媛グルメは数あれど、ぼくたちの暮らしに根ざしたソウルフードとはちょっと違うのかな?なんて思っている。我が家でいえば、麦味噌でこしらえる甘い味噌汁やフワフワ食感が楽しい松山あげ、それにプリプリした歯応えとジューシーな肉汁が特徴の松山ウィンナーが代表格かな。近所の店で気軽に買えるし、食べ飽きないっていうのがいい。それに加えて甘辛いミートソースがあれば申し分ない。ホーム食品の特製ミートソースを使うと、老舗「ゆえっと」のスパゲッティが再現できます。お試しあれ!



本の轍 越智政尚さん

春日町にて小さな本屋『本の轍』を営む。暮らしとアートに特化した古書、新刊、雑貨などを取り扱う。イベントや展示も行い、文化の発信の場となっている。



人気アーティストのチケットの転売問題、コロナ禍を経て公演での本人確認制度が厳しくなった。故に申し込み時に自身を含めて同行者を完全指定する必要があったり、電子チケットのみという場合やそれを同行者に分配したりと、右往左往している状況に遭遇することが増えた。電子チケットならではの便利さもあるけれど、紙のチケットを公演当日まで握り締めて楽しみに待ち、終わったそれを思い出とともに残しておくという昔ながらの方法が好きな私としては、紙チケットを受け取るという手間をかけてでも、選べる時は金券という方法を選んでしまう。皆さんはどうですか?



3曲目 (THEME) チケットは何派?

エディター・ライター 渡邊麻子さん

愛媛在住20年目。年間のライブ参戦数は平均70本~90本程度。音楽的にはとにかく雑食なので、好きなジャンルを聞かれると困ります。



先日は電子チケットでの入場時にステッカーが配られた。これはこれで嬉しい。

# KENBUN SCHEDULE



2024.10-12

メインホール  
サブホール  
県民プラザほか

※本文中のデータは2024年9月10日現在のものです。チケットが売り切れの場合があります。また予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。

ケンブン

## ㊦ 嘶家生活三十周年 桂吉弥独演会

10月14日(月・祝)  
13:30~(開場13:00)

全国30カ所を超える独演会ツアー。愛媛公演では、前座に桂弥彦、二ツ目に松山市出身の入船亭遊京、ゲストに柳家三三を迎える。桂米朝、吉朝の志を継ぐ吉弥の生の落語を楽しめる。

問/089-947-3535 (DUKE松山)  
¥/全席指定4,000円 ※未就学児の入場は不可



## ㊦ THE YELLOW MONKEY TOUR 2024/25 ~Sparkleの惑星X~

10月20日(日)17:30~(開場16:30)



10枚目のアルバム『Sparkle X』を携えた待望のツアー。大都市を含む大規模なホールツアーとしては1998年以来、実に約26年ぶりの開催。新たなグルーブの扉が開く!

問/089-947-3535 (DUKE松山)  
¥/指定席10,000円  
※6歳以上有料、席が必要な場合は未就学児もチケットが必要

## ㊦ 細川たかし 長山洋子 ~ふたりのビッグショー~

12月11日(水)13:00~(開場12:30)



演歌界を代表する細川たかし、長山洋子の夢の競演。ヒット曲満載、圧巻の歌声とともに、津軽三味線と尺八による美しくも迫力ある演奏も楽しめる。

問/0570-666-443 (夢グループ)  
¥/プレミアムチケット8,000円、SS席6,800円

## 令和6年度 県民総合文化祭

問/愛媛県県民総合文化祭実行委員会・愛媛県文化協会  
089-947-5581(愛媛県文化振興課)

### ㊦ 総合フェスティバル

10月26日(土)14:00~16:30

県内最大のアマチュア文化の祭典「県民文化祭」が10月から始まる。メインイベントとなる総合フェスティバルでは、「継承と創造 文化がつながる時」をテーマに、多様な芸術と人との出会いを通して躍動感あふれる催しが繰り広げられる。

¥/入場無料

※入場券(全席指定)が必要  
1階~3階の入場券の事前申し込みは10月2日(水)まで受付中



### ㊦ えひめ生涯学習“夢”まつり

11月30日(土)・12月1日(日)10:00~15:00  
(1日は~16:00)

生涯学習に取り組むグループによる楽器演奏やダンスなど舞台発表のほか、アクセサリーづくりなどの体験コーナー、県有施設の特設コーナーなどもあり、誰もが楽しめる催しがたくさん。

¥/入場無料



### ㊦ 子ども伝統文化フェスタ

12月1日(日)10:00~16:00

伝統文化・芸能を受け継ぐ子どもたちの熱演・力が光るフェスティバル。舞台発表や作品展示のほか、体験コーナーもあり、楽しみながら伝統文化に触れられる。

¥/入場無料

※一部体験は有料(材料費のみ)



県HP

ケンブンでは、10/26(土)~12/1(日)まで県内の文化団体によるさまざまな発表が行われる。スケジュールは県HPでチェック!



# PICKUP

**EHIME x CULTURE**  
10月13日(日)11:00~17:00

ハンドメイド作家の作品が並ぶマルシェや、生演奏による音楽、県文探検ワークショップなどが楽しめる“クリエイターの文化祭”。今年はなんと約100店舗が出店し、パンや焼き菓子、おにぎりなど片手で食べられるワンハンドフードも勢揃い。正面広場では「クラフトマーケット」も同時開催。

問/089-927-4777  
(公益財団法人 愛媛県文化振興財団)  
¥/入場無料  
※県文探検ワークショップは有料、ケンブンHPより事前予約が必要(先着)

## 県文見聞録 vol.3

まわるまわるYo舞台がYo

イラストレーター misato

松山市在住。クソツと笑えるキャラやイラストが得意。似顔絵グッズや企業キャラクターデザイン等も。

## LOOK FOR

チケット販売のお知らせ

### 舞踊交響詩 古事記一粒萬倍 A SEED ~愛媛の女神と五穀豊穰の物語~

今年1月、3,000人を超える来場者を迎えた公演の再上演が決定! 作・演出に松浦靖、能に親世流シテ方の武田文志、日本舞踊に紫派藤間流・藤間翔、慶祥流・慶祥芳之ほかを迎え、県内のアーティストらとともに創り上げる、愛媛の成り立ちと食の命の物語。チケットはネット申し込みのほか、ケンブン2階・第2事務室でも販売中(平日9時~17時)。

【公演日】12月13日(金)開演13:00、18:30@メインホール  
問/090-8280-3854(一般社団法人 一粒萬倍制作委員会・担当) 受付時間/月~土曜10:00~17:00 ¥/SS席7,000円、S席5,000円、A席3,500円、B席2,000円(当日はいずれも+500円) ※子ども無料席あり(小学生以上18歳以下)

## RESTAURANT INFORMATION

レストランのお知らせ

30~100人規模の利用に最適  
宴会・懇親会の受付スタート!

館内で会議後、人数が小・中規模(30~100人程度)の場合は、1階「レストラン TSUNAGU」で宴会・懇親会を行うことができる。料理はビュッフェ形式や卓盛り形式が選べ、もちろん飲み放題プランも用意。宴会のみの利用もOKなので、まずはお問い合わせを。

宴会のご予約:089-911-0980(株式会社ベルモニー)

## KENBUN JOURNAL

New Culture, New Experience

### 2024 vol.003

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5-1 TEL 089-923-5111  
企画・発行: えひめ文化振興コンソーシアム <https://www.kenbun.jp/>

ケンブンジャーナル編集部: 愛媛県県民文化会館内 企画・編集: 藤崎純子・河内春香・植松郁香・河野英一郎(以上えひめ文化振興コンソーシアム)、松下亮介・和氣敬憲・高須美登里・池川ゆかり デザイン: 林真央・土居麻巴香(以上エス・ピー・シー) 印刷: セキ株式会社 2024年9月24日発行/※掲載データにつきましては、2024年9月10日現在のものです。情報の内容は変更される場合があります。本紙記事、写真等の無断複写、及び転載を禁じます。

H P Instagram Facebook

Next Issue

### 2024年11月発行